第24回全日本実業団女子・高壮年剣道大会

令和5年3月4日（土）東京武道館　主催◆全日本実業団剣道連盟

3人制の団体戦で争われる全日本実業団女子大会、40歳以上の参戦選手によって優勝を争う五段以下の部、六段以上の部の個人戦。昨年、2019年以来3年ぶりに復活したこの大会が、今年もまた無事に開催を迎えた。参戦チーム、参戦選手も前回大会より増加、活気ある実業団大会が帰ってきた。

取材◆岡井博史　撮影◆編集部

決勝【大将】 志藤（伊田テクノス・本社）㊀メ―メ 太田（東京海上日動・本店）

▲同点道本数でむかえた大将戦は志藤が鋭いコテで一本先取（写真奥が志藤）。このまま終わるわけにはいかない太田が、志藤の技を誘ってからのメンを決めて一時は追いつくも、最後は志藤が一瞬のスキにひきメンを繰り出して勝利。伊田テクノスとして2回目の全日本制覇を決めた

決勝	先	中	大	得点
伊田テクノス（本社）	北條	小川	志藤	1
	×	メ	㊀メ	3
東京海上日動（本店）	×	㊁	メ	2
	佐藤	河村	太田	0

女子の部　関東女王・伊田テクノス（本社）が全日本も獲る

勝・伊田テクノス（本社） 北條李華（22歳）、小川梨々香（23歳）、志藤綾子（30歳）。監督＝佐々木誠（55歳）

志藤選手「決勝までは中堅の小川に頼ってきたので決勝は緊張しましたね。関東大会に続いての優勝は私自身初めての経験。ありがたいことです。チームの前２人は年齢こそ若いですが経験値は高いので、こなる存在です。年齢的に体力部分ではしんどいところもありますが、今後は若手のサポートをしつつ、私自身もやれる限りはがんばり続けようと思います」
※写真撮影のためにマスクを外しています

新型コロナウイルスの感染拡大によって2020年、2021年は開催中止となったこの全日本女子・高壮年大会。復活となった前回大会には93チームがエントリーされたがやはり当日の欠場チームも少なくなかった。2年連続の開催となった今大会には106チームが参戦。会場の東京武道館にかっての熱気が戻ってきた。

3人制の団体戦で争われる女子の部を制したのは伊田テクノス（本社）だった。この大会での優勝経験は過去1回（第22回）ながらも強豪実業団チームとして名高い同社。2022年6月に開催された第63回関東実業団大会では連覇も達成しており、関東女王がその勢いを持続させて2度目の日本一に輝いた。

先鋒から北條、小川、志藤とメンバー全員が全日本女子選手権大会出場経験者という強力な布陣。序盤戦からポイントゲッターとして活躍したのは最優秀選手賞も受賞した小川だが、上位争いとなれば大将の志藤が大黒柱として存在感を見せつけた。

大会2位には東京海上日動（本店）が入賞。過去関東大会（2018年・第60回大会）を制したこともある同社が全日本大会での初入賞を果たした。かつての関東優勝メンバーの一人である河村を軸に、今春入社予定の佐藤、大将の太田と全員が名門・早稲田大学出身者。中堅の河村の安定感、そして大将・太田の勝負強さが光り、強豪チームを撃破し続けた。

準決勝【中堅】 河村（東京海上日動・本店）㊦― 兵等（富士フイルムビジネスイノベーション・本社）

▲準々決勝では同門対決の代表戦を制した兵等。チームの要として勝ち星を上げたいところだったが、早稲田大学在学時に関東女子学生選手権大会を制している河村がここ一番の勝負勘を発揮。勢いのある兵等の動きをよく見て鮮やかなドウを見舞った（写真）。この一勝を守った東京海上日動が初の決勝進出を遂げた

	先	中	大	得点
東京海上日動（本店）	佐藤	河村	太田	1
	×	㊦	㊁	2
富士フイルムビジネスイノベーション（本社）	×		㊃	1
	伊東	兵等	榎本	0

決勝　神崎（アールエフテクニカ・本社）㊋―　松本（MS&ADホールディングス）

▲試合開始から先をかける神崎がコテ、松本のコテを誘ってのメンと攻勢に出る。一本となったのはやはり神崎の一打。構え合ったところから放ったメンが長身・松本を鮮やかにとらえた（写真）。その後、松本にも見事なメンが見られるなど、試合は白熱。時間切れにより神崎の連覇が決まった

六段以上の部

神崎（アールエフテクニカ・本社）史上2人目の連覇達成

優勝・神崎力
（45歳・アールエフテクニカ・本社）

「この大会に出ることがいまの自分の大きなモチベーションのひとつ。いろいろな方のおかげでここに立てているので感謝しかありません。年齢を重ねて仲間が増えていき、同じ世代の人たちと竹刀を交えることができるこの大会に出場できることが幸せです。決勝戦は松本選手の圧力がすごかったですね。剣道的には私の負けでしたから今後も修行していかなければ」

※記念写真撮影のめためにマスクを外しています

年齢40歳以上の選手が参戦する高壮年の部だが、とくにこの六段以上の部は競技レベルの高さはもちろんのこと、エントリー選手数も多い過酷なトーナメント戦となっている。

今回490人の選手がエントリーしたこの六段以上の部では、大会史上2人目となる連覇の記録が達成された（過去、三井住友海上・立見顕久選手が2601 5年開催の第16回・2016年開催の17回大会で連覇を達成）。

前回大会優勝者として戦いに臨んだのは神崎（アールエフテクニカ・本社）。激戦区・東京都代表として全日本都道府県対抗大会で活躍し、また全日本選手権大会の東京都予選などでは警視庁、皇宮警察といった強豪選手たちと五分の戦いを展開してきた名手が、9試合を勝ち抜いて2年連続の優勝に輝いた。

無尽蔵のスタミナもさることながら、年齢を感じさせない抜群の技のキレを見せた神崎。史上2人目、立見顕久選手以来の偉業達成については、「試合数が多いこともあって日常生活から整えてきました。連覇の結果またまたまですが、偉大な方と

2位・東京海上日動（本店）

佐藤桃佳（22歳）、河村奈穂（27歳）、太田麻友（25歳）、石井里美（29歳）。監督＝宮原良太（37歳）

※記念写真撮影のめためにマスクを外しています

3位・パナソニック（EW本社）

小倉清乃（25歳）、岡崎莉子（24歳）、安井杏（28歳）、濱田裕佳（22歳）。監督＝大道美幸（41歳）

※記念写真撮影のめためにマスクを外しています

3位・富士フイルムビジネスイノベーション（本社）

伊東有菜（25歳）、兵等日菜（25歳）、榎本琴音（23歳）。監督＝奥村美里（38歳）

※記念写真撮影のめためにマスクを外しています

準決勝	チーム	先	中	大	得点
	伊田テクノス（本社）	北條	小川	志藤	2
			㊋ド	㊋コ	4
	パナソニック（EW本社）	㊋			1
		小倉	岡崎	安井	1

準決勝　【大将】

志藤（伊田テクノス・本社）　㊋コ―　安井（パナソニック・EW本社）

▲連覇を狙うパナソニックは先鋒の上段・小倉（旧姓・相原）が一本勝ちで幸先の良いスタートを切った。苦しい伊田テクノスの救世主となったのが中堅の小川。メンで一本奪うと、その後はドウを追加して本数差で逆転。これを受けた大将志藤が出ばなメン（写真）、ひきゴテを奪って試合を閉めた

準々決勝　【代表】　兵等　メ―　吉良

富士フイルムビジネスイノベーション（本社）1（1）代―1（1）富士フイルムビジネスイノベーション（新宿）

▲富士フイルムビジネスイノベーションの同門対決は、中堅戦を本社の兵等が、大将戦を新宿の吉良が奪って代表戦に。勝ち星を挙げた選手同士の戦いは兵等のメン（写真）で決着した

準々決勝　【中堅】　小川　㊋―　三好

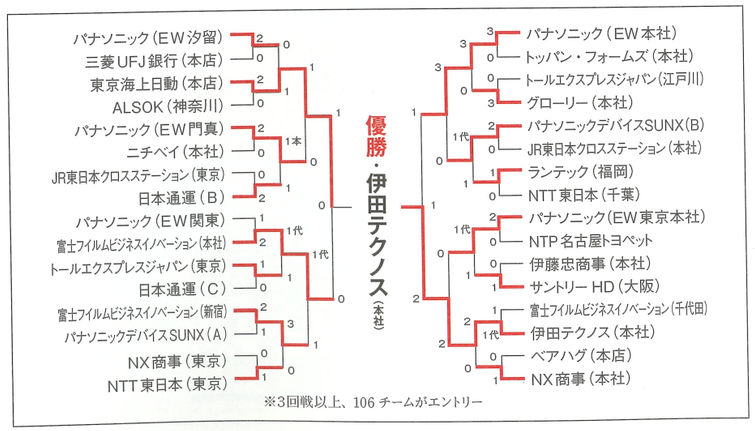
伊田テクノス（本社）2（3）―0（0）パナソニック（EW東京本社）

▲過去の最高戦績は2位のパナソニック（EW東京本社）。実力者が揃うだけに再度の決勝進出も期待されたが、ここでは中堅戦で一本負け（写真は小川のメン）、その後の大将戦も敗れてしまい、ベスト8で姿を消した

準々決勝　【中堅】　岡崎　㊋メ―　長田

パナソニック（EW本社）3（5）―0（0）パナソニックデバイスSUNX（B）

▲先鋒小倉の一本勝ちを受けた岡崎。伸び伸びと戦い、メンを二本連取する（写真は一本目）。勝敗決したあとの大将戦も安井（旧姓・大亀）が二本勝ちを挙げパナソニック（EW本社）が完封勝利



※3回戦以上、106チームがエントリー

五段以下の部

上段・片野（東日本旅客鉄道・本社）が初制覇

217人の選手がエントリーした五段以下の部を制したのは今回が初出場となる上段の片野（東日本旅客鉄道・本社）だった。

片手技に冴えを見せた片野は新潟県出身。新潟商業高校在学時には「県大会3位という戦績がある程度」だったそうだが、実業団剣士となって以降も努力を重ね、関東実業団大会3位入賞、全日本都道府県対抗優勝大会にも出場するなどの活躍を見せている。

現在も出身地の新潟で勤務と稽古に励んでいるという片野。主な稽古場は自分が育った道場と、子息が通う新潟第一高校だそうだ。

東日本旅客鉄道勢として初の実業団日本一に輝いた片野。「まだ日本一の実感は沸きませんが、稽古をつけてくださった方々に感謝ですね」と喜びを語りつつも、新しいステージに向けての目標を挙げる。

「六段審査に挑戦し続けているのですが、なかなかその壁が超えられず長くモヤモヤした時期を過ごしてきました。今回このような結果に恵まれたことで、また昇段に向けていろいろな部分を見つめ直していきたいと思います」

準決勝

松本（MS&ADホールディングス）ツツ―㊁　宇賀神（東京海上日動・本店）

▲二刀の宇賀神が初太刀でコテを奪い会場を沸かせるが、松本がすぐさま片手ヅキで一本を奪い返す。「勝負」となるや、再び炸裂したのは松本の片手ヅキ（写真）。松本が逆転の決勝進出を決めた

準決勝

神崎（アールエフテクニカ・本社）㊁コ―　宮本（MS&ADホールディングス）

▲好調な様子の上段・宮本だったが、ここでは先をかけ続ける神崎がスピードで翻弄。グイグイと攻め立てコテ（写真）を先制すると、その後も宮本に立て直すすきを与えず、再びコテを追加した

2位・松本伸二
（58歳・MS＆ADホールディングス）
※記念写真撮影のためにマスクを外しています

六段以上の部

優勝・神崎力

- 神崎力（44歳・アールエフテクニカ・本社）㊁コ
- 山本有樹（47歳・東日本電信電話・本社）㊁コ
- 宮本貴之（53歳・MS&ADホールディングス）㊁メ
- 大元順（57歳・パナソニックEW社・本社）㊁メ
- 松本伸二（58歳・MS&ADホールディングス）㊁メ
- 平井教夫（58歳・三井住友銀行・本店）ツツ
- 宇賀神良博（63歳・東京海上日動火災保険・本店）㊁コ
- 細川良一（66歳・日本製鉄・本社）㊁メ

※ベスト8以上

3位・宇賀神良博
（63歳・東京海上日動・本店）
※記念写真撮影のためにマスクを外しています

3位・宮本貴之
（53歳・MS＆ADホールディングス）
※記念写真撮影のためにマスクを外しています

勝・片野洋
歳・東日本旅客鉄道・本社）

ナによって大会が中止となり、その後は肩の手術て出場できず、今回が初出場となります。新潟商を卒業後に就職をして25年目です。稽古は地元積んでいます。上段は高校1年生の秋から。先生志願をして構えるようになりました。いまは六段挑戦中。昇段に照準を据えてまた稽古に励みます」写真撮影のためにマスクを外しています

決勝　片野（東日本旅客鉄道・本社）コ―　朝日（三井住友信託銀行）

▲上段に構える片野が惜しい技を繰り出すも、足を使う朝日をとらえ切ることができず、試合は延長戦へ。決定打となったのは片野の放った片手ゴテ（写真）。これが朝日の手元をとらえた

準決勝

（東日本旅客鉄道・本社）㊁メ―　西村（三井不動産）

段同士の準決勝。初太刀、片野が伸びやかな片手ゴテで先制する。「二本目」となるや、惜しいメンを繰り出しまたもや片野。試合の主導権を握った片野が最後は片手ゴテを追加し（写真右が片野）、決勝進出を決めた

準決勝

朝日（三井住友信託銀行）㊀―　横山（三菱地所）

▲動きのよい両選手の対戦はドウに跳び込んだ朝日が先制（写真奥が朝日）。その後は横山が猛攻を見せるが、これをしのぎ切った朝日が一本勝ち

五段以下の部

優勝・片野洋

- 竹村直（42歳・日本通運・本社）㊁コ
- 片野洋（43歳・東日本旅客鉄道）㊁コ
- 西村智久（47歳・三井不動産）㊁メ
- 谷秀俊（51歳・凸版印刷本社）㊁メ
- 松崎寛（53歳・プロアリア）㊁メ
- 朝日康成（56歳・三井住友信託銀行）㊀
- 横山典宏（59歳・三菱地所）㊀コ
- 神山直己（60歳・三越伊勢丹）㊀コ

※ベスト8以上

3位・西村智久
（47歳・三井不動産）
※記念写真撮影のためにマスクを外しています

2位・朝日康成
（56歳・三井住友信託銀行）
※記念写真撮影のためにマスクを外しています

3位・横山典宏（59歳・三菱地所）※3位の横山選手は閉会式不在のため写真撮影できませんでした